

花銀昭和散歩

平成26年10月発行
小樽花園銀座商店街の無料小冊子

ご自由にお持ちください

旧佐々木銃砲店の歴史

マッサンの足跡を辿る

花銀偉人伝〈浅羽靖〉

歩行者天国になり、賑わう昭和50年頃の花園銀座商店街



浅羽 靖

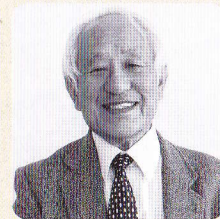
花銀偉人伝〈浅羽靖〉

小樽観光ガイドクラブ 山川隆さんに聞く

そんな人物が、じつは小樽・花園の大地主で、花園公園（小樽公園）から水天宮にかけての小高い丘陵地を切り崩して区画を整理し、現在の花園の街ができたそうなんです。

榎本武揚や石川啄木など、小樽にゆかりのある人物はいろいろいますが、浅羽靖という人物について教えてくれたのが、小樽観光ガイドクラブの山川隆さん。小樽市民でも、浅羽靖を知っている方は少ないのではないのでしょうか？

浅羽靖は1854年大阪生まれの政治家で、大蔵省に入省後、北海道理事官（現在の北海道副知事）や、札幌区長（市長）を務めた人だそうです。また、教育にも熱心で、北海英語学校（現在の北海道高等学校）の創設者でもあり、初代校長でもありました。



浅羽靖を語る 山川 隆さん

土地の値段も安かったことから明治30年ころから民家や商店が増え始めます。博物館によると、明治24年には花園町の人口が31戸212人だったのが、大正9年には3009戸、14550人まで増えたそうです。

「花園町」という町名がついたのは、明治17年という説が有力ですが、それまでは名前をつける必要もないような場所でした。民家などが全然なかったんです。じつは、その3年前である明治14年、当時小樽の中心地だった勝納町で大火があり、多くの家屋や店が燃えてしまいました。その後も何度か火事が起こり、徐々に町の中心部が入船町や稲穂町のほうへと移動することになります。そのような流れの中、元々丘陵地だった花園町は浅羽靖が区画整理を行って平らになり、

なぜ、花園銀座？



小樽にある風山、東山、そして「花園」などの名称は、元々京都（上方）の名称です。どうして、小樽にそのような名前がつけられたのか？

諸説ありますが、ひとつには北前船が関係していると言われています。

また「銀座」という名称は、東京の銀座が由来ではありますが、「当時一番にぎやかな場所」という意味合いでつけられたようです。

京都にある「花園」と、東京の地名「銀座」がミックスされた「花園銀座」は、ちょっと面白い名前ですね！

編集後記

商店街のマップを作るにあたり、ありきたりのマップじゃ面白くない。古くからある商店街なので昭和の歴史をオーバーラップさせた物を作ろうと言う事になり、ライター・田口さんと取材を兼ねて行くと、自分自身でも驚く様な事が多々ありとても面白い物が出来たと思う。

余市ニッカウヰスキーの創業者の竹鶴さんが何度も商店街のお店で買物をしていたり、花園銀座商店街の名前の由来であったり自分自身が知らない事をひもといて行く作業はとても楽しく進める事が出来た。

また、昭和30年頃からのお店も数多く残っており、皆さんもマッサンや浅羽さんの気持ちになって当商店街でのお買物をお楽しみください。

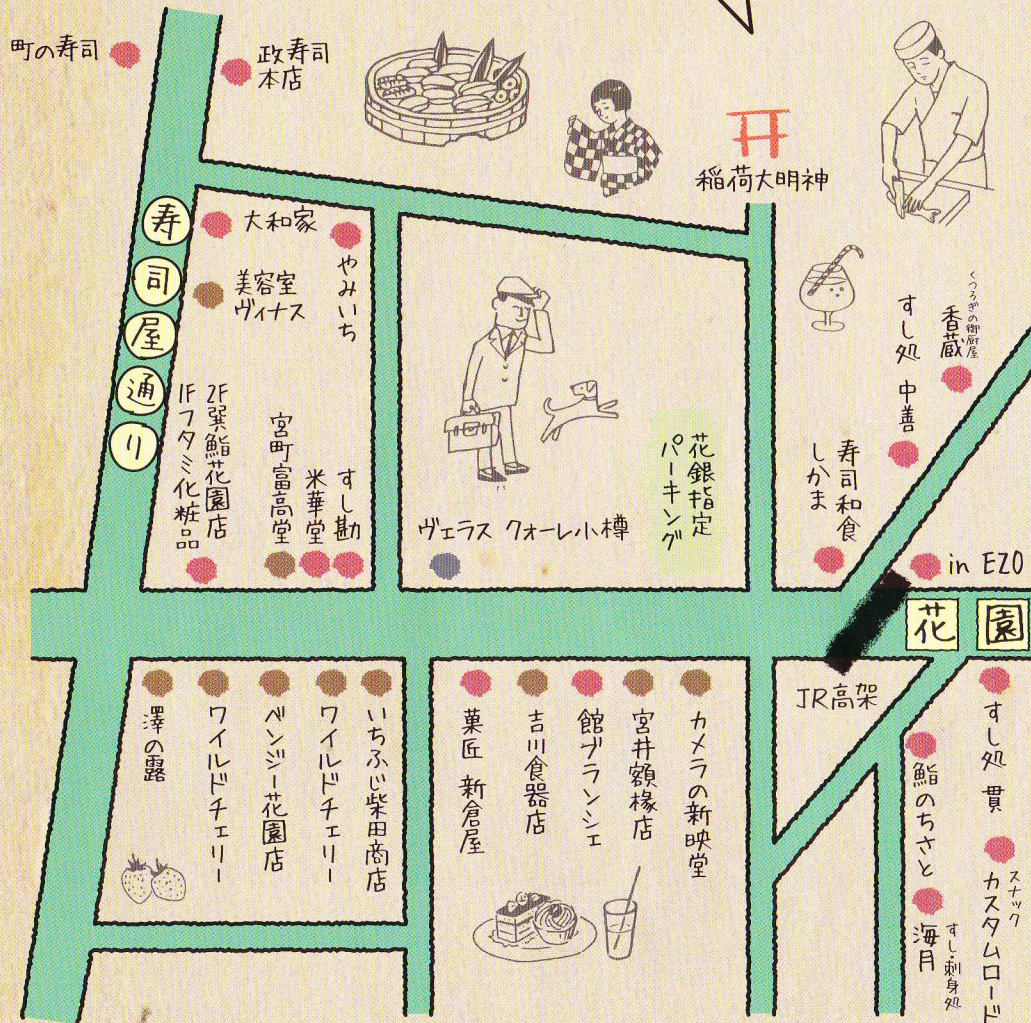
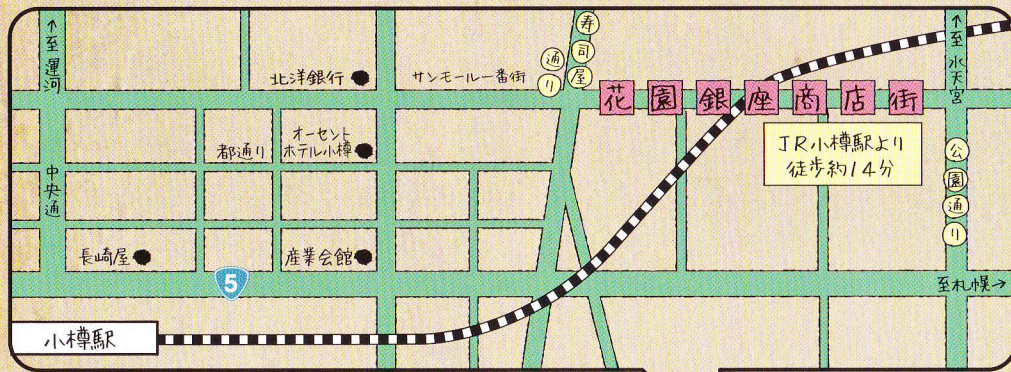
【編集部／岡田】

小樽花園銀座商店街の無料小冊子

花銀昭和散歩

発行日 2014年10月30日
発行 小樽花園銀座商店街振興組合
花銀昭和散歩編集部
制作 (株)北日本広告社 小樽営業所
ライター 田口 智子

ご意見・お問い合わせは
小樽花園銀座商店街振興組合
花銀昭和散歩編集部
otaruhanagin@themis.ocn.ne.jp



平成26年の

花園銀座商店街



★はなぞのさんぽ
小樽花園銀座商店街公式ホームページ
<http://www.hanagin.or.jp/>

はなぞのさんぽ

検索



★小樽はなぎん フェイスブックページ
<https://www.facebook.com/otaru.hanagin>



小樽はなぎん



【凡例】 ● 飲食店 ● 物販店 ● その他

旧佐々木銃砲店の歴史

旧佐々木銃砲店 社長 佐々木 徹 に聞く



旧佐々木銃砲店 社長 佐々木 徹

花園銀座商店街に店を構える旧佐々木銃砲店は、明治19年の創業。花園に店を構える前は、信香町に工場がありました。当時、北海道開拓のために北前船でやってきた人たちは、未開の地で狼や熊に会わないよう、小樽の神社でお参りし、護身用として旧佐々木銃砲店で鉄砲を買ひ、北海道の奥地に向かったそうです。

その後、花園に店を移したのは終戦の一年前である昭和19年。翌年、戦争が終ると、スチーム設備が整っていた旧佐々木銃砲店の建物は、GHQの事務所候補にあげられたそうですが、スチームをわざと壊し、事務所になるのを免れたというエピソードもあるとか。

戦時中はGHQが火薬の製造を中止させ、商業的には大変な時期でしたが、戦後しばらくは米兵の高級鉄砲を修理し、なんとか店を続けられました。もちろん、花火も戦後しばらくはできませんでした。徐々に米軍基地

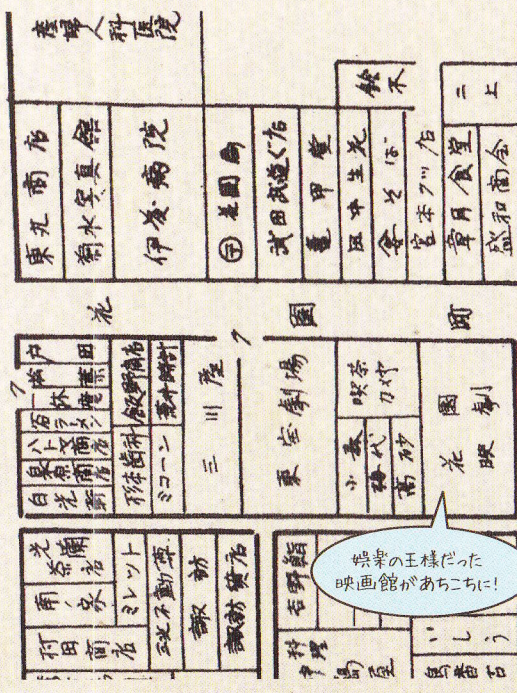
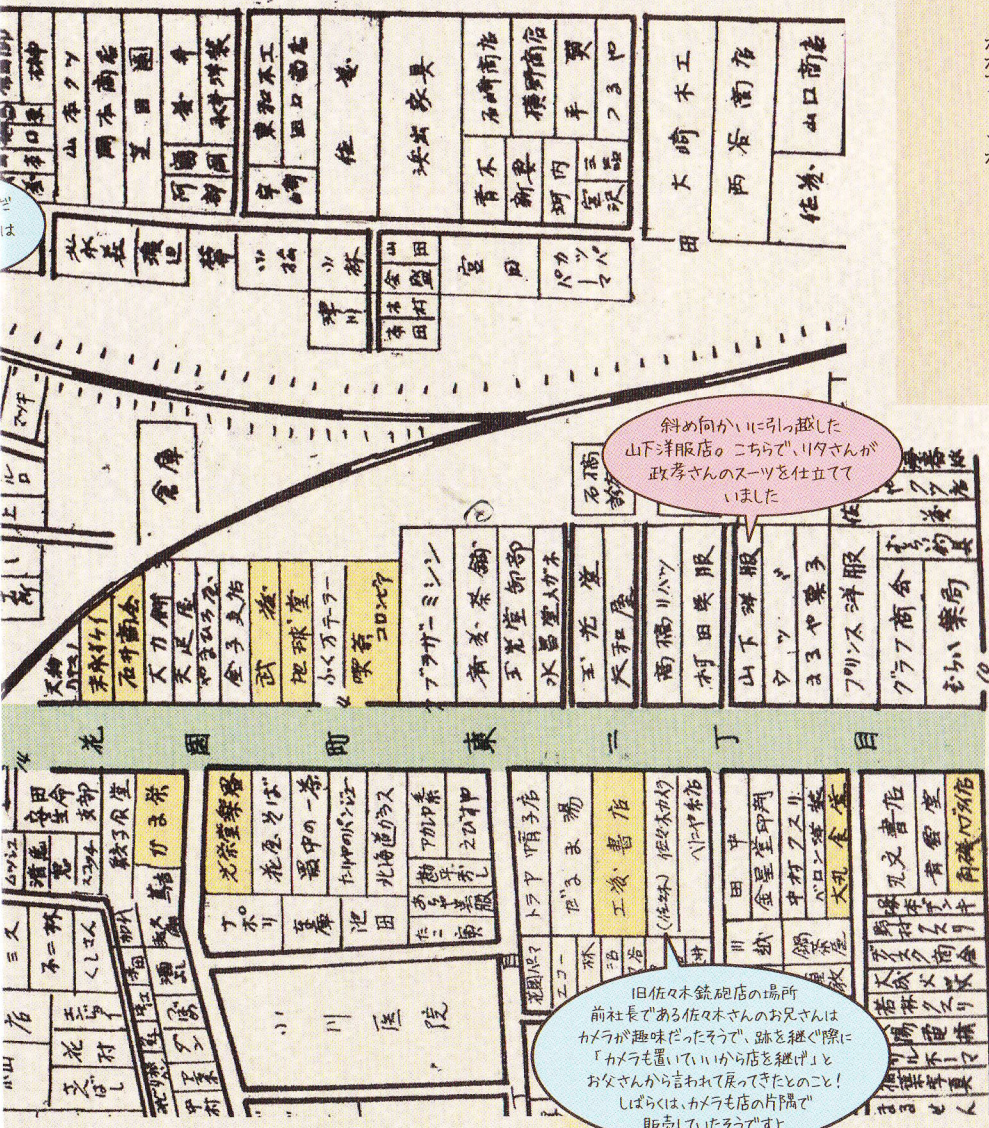
内で打ち上げ花火をあけるようになり、旧佐々木銃砲店も米軍基地に呼ばれて花火をあげたそうです。

そんな旧佐々木銃砲店の次男坊であつた徹さんは、昭和17年生まれで、生まれも育ちも花園町。当時の花園はとにかくにぎやかだったそうで、ダンスホールが35軒、玉突き場（ビリヤード場）が7軒、洋裁学校も17軒あつたとのこと！花園銀座街に來ないうと、映画も見られない、喫茶店でコーヒーも飲めないという時代だったので、買い物客などで常に町がにぎわっていました。ちなみに、ラーメン50円、喫茶店で飲むコーヒーが一杯50円だった時代の昭和39年、月々の町内会費が3万9千円だったそうで、どれほど当時の商店の方々に経済力があつたかわかる数字です。

長らく社長を務めていたお兄さんが平成8年に亡くなり、社長となった徹さん。生まれ育つた花園だけではなく、小樽を含めた日本の歴史、世界の歴史にもお詳しく、もともととお話を聞きたくなる魅力ある人物です。華やかだった小樽の歴史に触れたいなら、旧佐々木銃砲店を訪れてみてはいかがでしょうか。

昭和36年頃の花園銀座商店街

平成26年の現在でも花園銀座商店街で営業している店舗



▲昭和40年頃の旧佐々木銃砲店

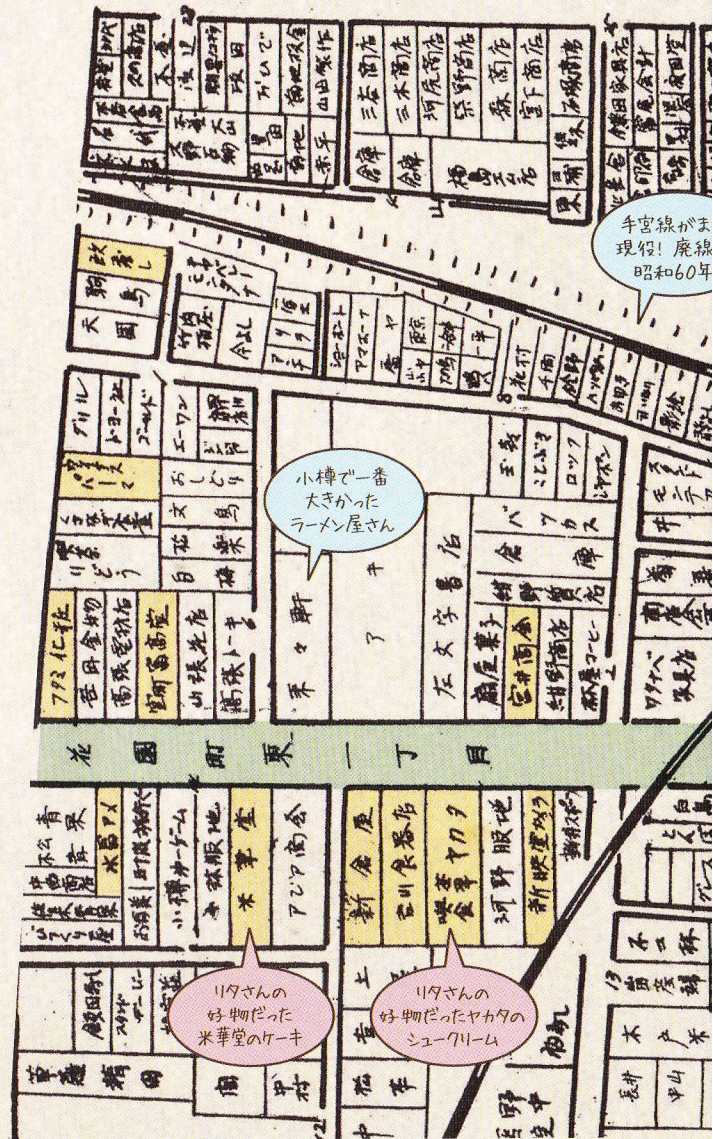


▲昭和36年頃、汽車が横切る花園銀座商店街 (提供: プティクスエナガ)



昭和30年頃新装開店した大○ラーメン
(提供:大○ラーメン)

当時は映画の後に喫茶店に行く、もしくは映画の後にラーメンを食べるというのが決まりのコースだった。



マッサンの足跡を辿る

小樽商科大学 江頭教授と高野研究員に聞く



小樽商科大学
江頭教授



小樽商科大学
高野研究員

だ、お二人一緒に来ることはなかったそうです。甘いものという、館のシュークリームも好きだったようです。竹鶴ご夫妻には養子の息子さんがいて、そのお嫁さんが井上歌子さんという小樽の花園町で暮らしていた方だったんです。その歌子さんの妹さんが竹鶴家を訪問する際に、お土産に館のシュークリームを持っていき、政孝さんはそれを大変気に入っていたそうですよ。

——一気に、政孝さんとリタさんが身近に感じられますね！

ところで、どうしてお二人は花園銀座に来るようになったんですか？

江 政孝さんは、仕事で小樽に来ていました。余市の隣町の大きな都市である小樽は商談先でもあったでしょうし、取引銀行に立ち寄る用事もありました。札幌や東京からの帰りに小樽に寄って米華堂に行ったり、市場で買い物をするために小樽リタさんは、買い物をするために小樽に来ていました。

高 リタさんは、美容室へ来たり、買い物などの用事で小樽に来ていました。そのついでに、喫茶店で「休みしたり、映画を見たりしていたんです。また、花園銀座街から水天宮に向かう道沿いに小樽聖公会という教会が



▲昭和30年頃の花園銀座商店街
(提供:大○ラーメン)

ありますが、こちらにイギリス人の宣教師がいたんです。スコットランド出身のリタさんにとって、同郷のイギリス人と英語で話せるというのは、リフレッシュにもなったでしょう。教会で歌を歌ったり、寄付をしたり、よく足を運んでいたようです。

——そうですか。ちなみにこの地図は、いつ頃のもんですか？

江 昭和36年ごろのもんです。見てみると、喫茶店や映画館などが花園銀座を中心に集まっているのがわかります。まだ、寿司屋通もいない頃ですが、すでに花銀の周りには寿司屋も立ち並んでいます。この頃の花園は飲み屋街ではなく、住居も多かったんですが昭和40年代に入ってから飲み屋が増えてきました。当時、花園銀座に住んでいたという方に話を聞くと、「この街(花園銀座)だけですべて生活が成り立ち完結するので、ここから外に出ることがなかった」とおっしゃっていました。

高 ほかに、商店街はありました

が、「一番華やかでハイカラだったのが花園銀座だったんです。このエリアは、写真も多く残っていますね。」

——花園銀座にどれだけ多種多様な店があつて、にぎわっていたかがわかりますね。それにしても、今でも同じように営業しているお店もあつて、嬉しく感じますし、そういうお店が今後も続いていくように、我々もつと花園銀座街を利用しなくては！と改めて思います。

——今日聞いただけでも「マッサン」にちなんだ店がいろいろあるとわかりましたし、連続テレビ小説が放送されている時に、当時を懐かしみながら花園銀座を歩いてみてほしいですね。本日は、ありがとうございました！！



▲昭和30年頃の花園銀座商店街

江頭先生 (以下 江)
今回登場している旧佐々木銃砲店の建物は、昭和30年代は「山下洋服店」でしたが、ここにリタさんが来て政孝さんのスーツを仕立ててたんです。

高野研究員 (以下 高)

お二人は、米華堂のケーキ、特にアップルパイが好物だったそうで、よく店内で食べて行かれました。お土産にも買って帰ったそうですよ。た